

令和7年度第2回青梅市美術館運営委員会会議録

日 時

令和8年3月6日（金） 午前10時48分～午後0時12分

会 場

S & D たまぐーセンター文化活動室B

出席者

（委 員）

志賀委員長、佐川副委員長、牧野委員、鴨木委員、白井委員、  
藤原委員

（事務局）

森田生涯学習部長、原島文化課長、田島美術担当主幹、  
塚本美術管理係長、村上主任、阿部主任

欠席者

（委 員）

持田委員

1 開会

2 あいさつ

（生涯学習部長および志賀委員長からあいさつ）

3 報告事項

(1) 令和9年以降の展覧会開催計画（案）について

（事務局より資料1の説明）

〈一部了承〉

(2) その他

（事務局からは特になし）

〈意見聴取〉

4 協議事項

観覧料の改正について

（事務局より資料2および3の説明）

〈了承〉

5 その他

〈意見聴取〉

6 閉会

〔主な質疑、意見等〕

○ 令和9年以降の展覧会開催計画（案）について

（委員）とてもバリエーションに富んだ企画で、期待の持てるラインナップになっていると思う。目新しさだけではなく、収蔵品の活用についても、定期的に計画されている点も評価できる。その一方で、美術館の今後の運営体制の観点では、年間4回の展覧会を継続的に運営していくための体制もしっかりと確認していく必要があると思う。

（委員）多様な展示の企画。楽しみにになった。

（委員）より市民に親しまれる美術館になって、色々な企画で市民に還元できればいいなと感じた。

（委員）美術館もきれいになって、楽しみなラインナップ。企画展示に関して、年間どの程度の予算規模を想定しているのか。

（事務局）広報費等諸々含めて、3千万程度を想定しているが、現在の社会情勢を考えると、色々と注視して考えて行く必要はある。

（委員）せっかくの面白そうな企画。予算も頑張っていたきたいが、年間4本程度の展覧会を何人の学芸員で担当するのか。

（事務局）年間4本の企画を1人でこなすのは大変なので、人員増を要望している。

（委員）何度も委員会で申し上げてきたが、1人で年間4本は絶対に無理。1人の学芸員が倒れたら全てが無くなってしまうので、サポート体制なり人員確保する方法を検討してほしい。

（事務局）人員体制については、人事と調整をしているので、動きがあり次第、報告したいと思う。

（委員）今後の計画は非常にバランスの取れた計画。青梅市立美術館のイメージが一新されるような内容だと思う。この計画を実現するにあたり、人員の確保は大きな問題であり、市民に訴えるための鍵となるのは、体制づくりができるかどうかの一点に尽きると思う。また、収益面的には赤字になることは致し方ない。しかしながら、視点を市民サービスに切り替え、ただ、お金がかかるというだけでなく、次世代の子どもたちに向けた教育や高齢者福祉等への貢献度を、この計画に実現されるといいと思

う。

○ （報告事項における）その他

（委員）授乳室が設置されたのは良かったと思ったが、荷物を置く台等がなかった。

（事務局）備品の設置はこれから。

（委員）リニューアル工事のために、一時的に外部倉庫に預けている収蔵品についてのリニューアル後の保管および展示計画はどうなっているのか。

（事務局）今後、特別展を年間3回程度開催していくとなると、借用作品を保管するスペースが必要となる。当館の収蔵庫については、その借用品等の保管スペースとして運用することとし、収蔵作品については、継続して外部倉庫へ預けておきたいと考えている。

（事務局）新たに収蔵庫を建設した場合のシミュレーションをしたが、20年経っても借用し続ける方が経済的であった。現在は、箱詰めした作品を保管してある状態だが、今後は、貸出や展示等で出し入れがあることから、倉庫会社のサービスを利用するなど、どこに何の作品があるのか管理しやすい方法を検討したい。

（委員）保管料は年間どのくらいなのか。

（事務局）年間1千万円程度かかっている。

（委員）年に1回館蔵品展を開催する予定とのことだが、常設展示は無くなるということか。

（事務局）はい。

（委員）館内で作品を保管するのも、電気料等のコストがかかる上、少ない人員で作品管理する場合、外部倉庫で管理するのも、経費的にはコストを抑えることになるのかもしれない。その辺、バランスを見ながら運営しなければならないと思う。

○ 観覧料の改正について

（委員）妥当な金額設定であると思う。また、特別展の上限金額については、上野や六本木などの都心部と多摩地域で料金格差が指摘されることもあり、多摩地域の美術館で都心部の美術館のような高額な料金設定はあまり見られないようだ。その中で、改正

案の上限金額については、ある程度バランスの取れた金額設定だと感じる。一つ気になる点として、特別展毎に料金は変化するのか。市民目線で言うと、展覧会毎に料金が変わるとわかりにくいという観点もあるかと思うが、特別展の料金について、どのように運用していくのか。

(事務局) 今までも、1,000円以内の中で展覧会の質やボリュームによって金額は変えてきている。今後も、展覧会毎にかかる経費等がある程度、観覧料に反映していかざるを得ないと思っている。

(委員) よく理解できた。観覧料案は妥当。今までの安すぎるのかもと思った。ちなみに小中高生に対して割引はあったのか。

(事務局) 展覧会毎に行う場合と、それ以外に土・日・祝日の市内の小・中学生は無料だった。

(委員) 以前は市民と市民以外の人で料金の差や60歳以上のというような区分けはあったか。

(事務局) 年齢での割引はあったが、市民と市民以外のという区分けは無かった。

(事務局) 国立の美術館では日本人と外国人で二重価格にしようという動きがある。今後は、住民と非住民で分けるやり方が出てくる可能性はある。

(委員) 改正案について異論はない。料金の話ではないが、せっかく市内に美術館があるので、小中高生が本物の美術に触れる機会を増やしていただきたい。

(委員) 無料日は計画しているのか。他館の場合は、展覧会初日に無料日があり、多くの方が来館される。宣伝にもなるが、年間何回かの無料日や小中学生の無料日等の設定はどうか。

(事務局) 他自治体の取り組みを参考に検討していきたい。

(委員) 料金改定を実施される際には、しっかりと企画内容の良さを市民に告知をした上で実施される方が良い。今後の企画予定は、非常に若々しい人たちに対するテーマ設定となっている。若い方が来館されるようになると美術館のイメージも変わると思う。無料日等をアピールポイントとして活用してはどうか。次回以降の来館機会が上がり、収益を上げる上でも、また、親しめる

美術館のイメージを市民に訴える意味でも有効だと思う。

(事務局) 無料日を設定した場合、一度に多くの来館者が来られると、今の運営体制上、対応ができない。まずは運営体制を整えた上で考えないといけないと思う。また、今回更新した空調設備は以前の設備と同等の性能であるため、一度に多くの来館者が来た場合、更新した設備で温湿度を一定に保つことが可能なのか不安なところがある。作品のことを考慮すると、一度に多くの来館者が来るような状況は避けたい。

(委員) 事情は理解した。この時代なので、時間の枠を作り、ネットで予約して人数を区切るという方法はどうか。

(委員) その方法もあると思う。また、招待券を期限付きにする等、色々な方法はあると思う。とにかく市民が来館する動機付けを考えていただきたいというのが当委員会の意見です。

○ その他

(委員) せっかく素敵な展覧会が並んでいる。広報等、充実しないといけないと思う。人手不足に絡んでしまうが、広報戦略などをよく考えて、広めていただきたいと思う。

(事務局) 展覧会の話ではないが、今年度、これまで紙ベースで記録されていた収蔵作品等のデータについて、収蔵作品管理システムを導入してデジタル化した。3月中にはweb公開も予定している。著作権の許諾が取れていない作品も多いが、著作権切れの作品や許諾の取れた作品画像についても順次公開していく。

(委員) せっかくりニューアルオープンするので、十分広報費をつけ、ホームページもリニューアルする等して次につなげてほしい。

(事務局) ホームページは市長部局の管理となっているので、美術館独自のページになるわけではないが、収蔵品管理システムの公開画面のリンクを貼るような形で公開を検討している。

(委員) 新聞社が特設サイトを作り、大々的に協力してもらえることもあるようなので、そういった手法も検討してやってもらえれば。

(事務局) それは共催とかが組まれている展覧会。これまでに付き合いがある館だと枠が有ったりするが、当館としては全く実績がない。新規が入れる余地は、ほぼ無いと思っていただきたい。

- (委員) 一委員としての希望ですが、あくまでも広報をできる範囲の中でしっかりとやっていただきたいということでもあります。市民の中にも動画を上手に作る方も増えてきた。そのような小さいネットワークでも協力いただければ、派手ではなくても内容は伝えられるのではないかと。色々な方法を考えて、盛り立てていただきたいという一委員からの意見として受け取っていただければと思う。
- (委員) 長い休館で閉館したと思われているのではないかと。休館期間が長いと、何やっているのだとか、市民や市長、議員などからそのような意見が出がちなのだが、そのような意見は出ているのか。
- (委員) 開館までの何か動きはあるのか。こんなふうになりましたとかいう告知はしているのか。
- (事務局) 市のホームページ上で改修の状況を掲載している。休館期間が長いため、勘違いされる方もいるかと思うので、リニューアルオープンすることについては、具体的な方法や時期は決まっていらないが、伝えていきたいと思う。
- (委員) 美術館前の休館中のお知らせ看板が地味なので、大々的に書いてもいいのではと思った。
- (委員) 以前の委員会でも話に出たと思う。オープンするまで期待を持てるような広報や告知をやっていただければ。
- (委員) 休館期間中の活動状況についてはいかがか。
- (事務局) 今年度は、今後の計画を立てるにあたり、折衝したりデータの整理をした。ただ、からし期間中についてはファシリティレポートを作成するにあたり、きちんとデータを取る必要があるため、そちらに注力したい。
- (委員) 理解できるが、休館中にも何かやってほしいというようなリクエストはあるのか。
- (事務局) 美術館ではなく、たまぐーセンターでワークショップ等を計画している。他にも、「さすが美術館だ」と言われるような企画を考えていきたい。今後は、美術館の施設に捉われず、大きなエリアで美術館らしい企画をできればと考えている。
- (委員) 再開館後の1本目はほぼ確定なのか。

(事務局) 確定している。

(委員) そうなると、年度前から告知する必要もあるのではないか。年度当初に「今年度はこんな企画です」ということではなく、少し前の段階から「こんな企画です」と告知をすれば、繋がってくるのではと思う。

(事務局) 今後の予算の組み方については、他市を参考に、債務負担行為という手法を用いれば、前年度から告知する等、動きが取れるので、そのような方法も検討している。

(委員) 年度またぎの展覧会も増えてきた。市民目線でそのような予算の立て方もあると思うので、少し前から告知を進めていただき、市民の期待値を高めてもらえればと思う。

(事務局) 先ほどの委員の質問に回答すると、月に何件かは、今何をやっているかといった問い合わせはあり、その都度、休館中です、とお答えしているが、展覧会については、相手方もあるのでまだ告知ができない状況でもある。また、休館期間が長いことによって、庁内からも暇だと思われるのも事実。ご承知のとおり、現在の体制では、展覧会やイベント、広報もとなると不可能で、その上、リニューアルに伴う企画もとなると完全にオーバーワーク。展覧会を実現させるだけでも大変な状況。最初の1年分については、休館期間中であつたため、内諾を得たり調整はできているが、展覧会が始まり、美術館として動き出した時、同じペースで出張や交渉、調査ができるか、というと不可能。

(委員) 学芸員が1人しかいないとか、人手が足りないとか市民に一番伝わりにくい部分だと思う。そのため、議員や市民にしてもドリームプランを言われてしまう。本来であれば、学芸員を後2、3人増やしていただくのが一番の解決方法だと思う。そうすれば、もう少しワークショップや広報といった分担ができるのではないか。

(委員) 報告事項で、今後の展覧会を示していただきました。今日の当委員会の結論として、この案は素晴らしい内容であるので、この案で進めてください、と結論的になってくると思う

が、こうした事情を伺うと、当委員会として、この案を付帯意見なしに了承していいものかと感じる。

(委員) 学芸員の人員増員の検討についても、再来年度オープンとなると、遅くとも来年度(令和8年度)の早い時期には増員体制を作らないといけないと思う。

(事務局) 事業費についても、実現させようとする、これまでより経費がかかる展覧会になる。だからと言って何割カットで実施できるかという、現実的にはそれもできない。4本予定していた展覧会も1本しかできず、残りの期間は休館という形になってしまう。

(委員) 学芸員1人の体制で年間4本の企画展準備や運営はありえない。これは絶対に無理であると考えてる。

(委員) この計画だと、人員増員が無ければ成り立たないと言っていいと思います。委員会としては、計画はよしとして、人員増なくしては、この計画の実現は無理である、と付け加えさせていただきたいというのが本日の意見集約となります。

閉会